

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4570200529		
法人名	社会福祉法人豊の里		
事業所名	グループホーム2ユニットひまわり		
所在地	宮崎県都城市蓑原町1839-9 (電話) 0986-25-4746		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年8月21日	評価確定日	平成21年9月25日

## 【情報提供票より】 (平成21年7月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 6年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤12人, 非常勤5人, 常勤換算5.5人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,500 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(10,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	386 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(平成21年7月20日現在)

利用者人数	18名	男性 4名	女性 14名
要介護1	2	要介護2	7
要介護3	6	要介護4	1
要介護5	2	要支援2	0
年齢	平均 82.3歳	最低 66歳	最高 91歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人豊栄会豊栄クリニック
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、緑豊かで静かな場所に位置し、近隣には同法人の地域密着型介護老人福祉施設や小規模多機能型居宅介護事業所、民家が混在している。「地域に開かれ、地域に愛される事業所」を目指した理念を掲げ、地域との関係を大切にし、地域住民を対象に介護相談を実施している。利用者へ質の高いケアを提供していくため、職員が働きやすい環境と継続した研修を取り入れ、職員教育や育成に努めている。物忘れ外来で医師より、各利用者ごとの症状に応じたアドバイスや相談に乗ってもらい、利用者の思いが引き出せるケアの提供を心がけている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回課題となった項目は、全職員で検討し改善に向け取り組んでいる。運営推進会議でも報告し、さまざまな立場から意見を頂き、改善につなげている。地域とのつきあいや運営推進会議を生かした取り組みは、改善に向け対処できているが、鍵をかけないケアや同業者との交流は継続的課題である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、評価の意義や目的について職員に説明し、理解を得ている。自己評価を各職員で行い、全職員で各項目ごとに話し合いを重ね、サービスの質の向上につながるよう取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月ごとに、地域の代表者や利用者が参加して運営推進会議を開催している。定期メンバー以外の他職種の参加も臨時的にあり、質の高い運営がなされている。会議の結果は職員に伝達し、改善点や助言は即ケアにつなげるよう努めている。行政との連携も密に行い、事業所の現状や課題を報告しアドバイスを求めている。行政からも、各関係機関への橋渡しや運営推進会議での説明等をしてもらえる関係作りができています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族と時間をかけ話し合うことを大切にしており、家族の意見をケアにつなげる取り組みをしている。利用者家族へ年に2回、ケアの内容から職員の対応等を網羅したアンケートを実施し、改善につなげる努力をしている。家族の来訪時には、利用者の生き生きとした表情の写真や日ごろの暮らしぶりを細かく報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	管理者は、特に地域とのつながりを大切にし、利用者が安心して生活ができる関係作りへの取り組みをしたいと考え職員に伝えている。自治会に加入し、回覧板のやり取りや散歩などで、地域の方との交流が更に深まってきている。地域住民を対象に介護相談を実施しており、地域と支えあいの関係を大切にしている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員の思いを取り入れ「地域に開かれ、地域に愛される事業所」を目指した理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者本位の質の高いケアを大切にし、理念が日々のケアの実践に生かされるよう、毎月の職員会議で、意識づけしている。また、地域の人たちとのかかわりの重要性も認識し合い、実現に向け取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域との交流が更に深まってきている。回覧板のやり取りや散歩などで、地域の方と言葉を交わす機会が増えてきている。地域を対象に介護相談を実施しており、地域と支えあいの関係を大切にしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価の意義や目的について職員に説明し、理解を得ている。自己評価を各職員で行い、全職員で各項目ごとに話し合いを重ね、サービスの質の向上につながるよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに、地域の代表者や利用者が参加して運営推進会議を開催している。定期のメンバー以外に他職種の参加も臨時的にあり、質の高い運営がなされている。会議の結果は職員に伝達され、改善点や助言は、即ケアにつなげるよう努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	直接利用者とともに市役所に出向き、事業所の現状や課題を報告しアドバイスを求めている。行政からも、各関係機関への橋渡しや運営推進会議での報告やアドバイス等をしてもらえる関係作りができています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時には、利用者の生き生きした表情の写真や暮らしぶりを細かく報告している。電話でも随時報告し、継続した関係づくりに努めている。管理者は、家族と時間をかけ話し合うことを大切にしており、家族の意見をケアにつなげる取り組みをしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年に1回開催し、家族会以外にも行事ごとに声をかけ、交流を大切にしている。利用者家族へ年に2回、ケアの内容から職員の対応等を網羅したアンケートを実施し、改善につなげている。結果は、家族にも報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員が働きやすい環境作りを大切にすることが、利用者への質の高いケアの提供につながることを認識し、職員の異動が少なくなるよう配慮している。2ユニットの利用者を全職員が把握し、利用者も行き来できる環境を作るため、全職員がユニットをローテーションしケアを提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員各自に応じた事業所内・外の研修が受けられるよう計画を立てている。事業所外での研修内容は、全職員が共有できるよう復命書を作成し、ミーティング時に発表している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内のグループホームとの意見交換会は実施しているが、法人外の事業所との交流は実施していない。グループホーム連絡協議会は、以前加入していたが、現在は加入していない。	○	他事業所との交流を図り、勉強会やホームの情報交換を行うことで、ホームのできている点や改善点のヒントが得られやすい。ホーム独自のケアから、ホームが立地する地域全体の認知症ケアの質の向上を図る意味でも、ぜひ他事業所との交流を深め、向上する取り組みをしてほしい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者のダメージを減らし移り住んで頂くため、家族利用者の見学の受け入れや、職員が病院等への訪問を積極的に行いなじみの関係作りを行っている。また、ホームに入られた当初は、コミュニケーションを集中的に行い早くなじめるよう努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	寄り添いながらのケアや利用者の気持ちを大切にするケアを基本に関係作りをしている。利用者の笑顔や生き生きとした姿を大切にし、利用者とともに支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と同じ目線で利用者が何を求めているのか常に考え努力をしている。利用者の情報は、家族や関係者、利用者から聴き取り、本人本意に検討している。センター方式のアセスメントを活用し、意向の把握につなげている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がより良く暮らせるために、本人や家族、関係者から意見を聴き、それぞれの意見を反映した利用者本位の介護計画を作成している。各利用者ごとに、計画の内容がケース記録の一番前に添付してあるため、職員全員で共有できるシステムになっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の見直しがなされ、家族にも随時説明がなされている。毎月のスタッフ会議や朝夕の申し送り時に、ケアの見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて、病院への通院や必要な買い物支援、外出の支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者は、事業所の協力医がかかりつけ医になっている。1週間に1回は往診があり、安心につながっている。毎月、物忘れ外来を受診し、各利用者ごとの症状に応じたアドバイスや相談に乗ってもらいケアにつなげている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療との連携体制をとりながら、利用者・家族が望むケアを、事業所は取り組む方針である。今後、本人及び家族、医師、看護師を交えて話し合い、関係者全体の方針の統一を図って行く予定である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の自尊心を傷つけない言葉遣いや接遇は、職員採用時や定期的なスタッフ会議で話し合い確認しあっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の行動を十分把握し、利用者の思いや希望に沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者と職員が同じテーブルを囲んでさりげなく介助しながら、楽しい雰囲気と同じ物を一緒に食べていた。利用者の力を生かしながら、おやつ作りや食後の片づけを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前に利用者の体調を確認し、羞恥心等に配慮しながら、本人の希望やタイミングに合わせて入浴支援を行っている。入浴拒否の利用者には、さまざまな工夫を行い、安心して入浴できるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の有する力や興味に応じて、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ等その人に合った役割や生きがいを持てるよう支援している。ホーム内のレクリエーション、散歩やドライブといった楽しみごとや気晴らしの支援もできている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や病院受診、また、職員が関係機関に外出する際にも、できるだけ利用者を同伴し、外出する機会を増やしホームに閉じこもらない支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出願望の方がおり、職員が付き添い散歩の支援を行っているが、エスケープがあり鍵をかけている。鍵をかけないケアを実践するため、職員間で話し合いがもたれているが、難しい現状である。職員は、鍵を掛けることの弊害は十分理解している。	○	利用者の安全確保も求められることであるが、同じように、鍵を掛けることの弊害も利用者にとって重要なことである。引き続き、鍵を掛けないですむケアの体制を検討して欲しい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間帯の出火を想定し、召集訓練・避難訓練を実施した結果、さまざまな問題点や今後の取り組みが見えてきている。 特に地域住民との関係強化の必要性があり、地域とともに避難訓練に取り組む予定である。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの定期的な体重測定と食事や水分の摂取状況を記録し、職員が情報を共有している。水分摂取が困難な利用者には、アガー（凝固剤）等を活用し工夫している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の隣には畳の間があり、ゆっくりくつろげる場所が準備されている。 台所は対面式でお互いの顔が見え、利用者が安心できる造りとなっている。 不快な音や臭気も無く、採光、室温は居心地よく過ごせるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やテレビ、観葉植物、使い慣れた日用品が持ち込まれ、その人らしく安心して過ごせるよう配慮されている。		

※  は、重点項目。